JAAF MIE
三重陸協会報
第15号
一般財団法人
三重陸上競技協会
事務局・〒516-0023 伊勢市宇治館町510（三重交通Gスポーツの杜伊勢 内）　TEL 0596-22-8890・FAX 0596-63-5337　URL:http://mierk.jp/　MAIL:info@mierk.jp

ごあいさつ

三重陸上競技協会　会長　**田村憲久**

昨年は、かつてない異常気象に見舞われた一年となりました。梅雨時期から数十年に一度と言われるような大雨が各地で多発し、地震から復興途上の能登半島にも豪雨が襲いました。夏には各地で猛暑を越した酷暑により、毎日熱中症アラートが発令されました。夏の高校野球も熱中症対策で二部制を取り入れるなど、大会運営の工夫をしていました。陸上競技においても、日々の練習の中で日中の活動を抑えたり、競技会運営でも時間帯をずらして競技を行ったりという工夫をしてきました。異常気象と言われて久しいですが、屋外で行われる陸上競技である以上、工夫をしながらうまく付き合っていかなければならないことを実感する一年となりました。

さて、本県における陸上競技の活躍を振り返りますと、昨年8月に開催されたパリオリンピックにおいて三重県出身の選手が2名出場しました。まずは男子２００ｍと男子４×１００ｍＲに出場した上山紘輝選手です。２００ｍでは予選から準決勝には進めず、敗者復活レースに回ったものの、惜しくも敗退となりました。その悔しさを晴らすべく男子４×１００ｍＲに出場し、予選は全体４位のタイムで通過し、決勝では5位に入賞しました。目標としていたメダルには届かなかったものの、予選、決勝ともに４走として堂々の走りを見せてくれました。２人目は男子４×４００ｍＲに出場した川端魁人選手です。予選では日本記録を上回るタイムで決勝進出を決め、決勝では予選のタイムをさらに上回り、アジア記録も更新し、６位に入賞しました。このリレー2種目のオリンピックでの入賞は日本陸上界の層の厚さを示すとともに本県で陸上競技をしている子どもたちの希望の星となったことでしょう。

パラリンピックにおいても伊藤智也選手が４００ｍで銅メダル、１００ｍで７位、前川楓選手が走幅跳で6位、井谷俊介選手が２００ｍで7位と三重県出身の3選手が出場し、入賞してくれました。

また、U18・U16陸上競技大会が本県伊勢市で開催され、全国各地から選手や観客など多くの方に三重県に訪れていただきました。このU18・U16陸上競技大会は3年間、同じ都道府県で開催されるということで今年、来年とも本県開催ですので、さらに多くの皆さんに陸上競技を通して三重県の魅力を知っていただきたいと思っております。

令和7年は世界陸上が東京で34年ぶりに開催されます。三重県では先述のU18・U16陸上競技大会を始め、東海大会も複数開催されます。協会として選手が最大限の力を発揮できるような場を提供していきたいと考えています。今後益々の三重県の陸上競技の発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

大会運営

三重陸上競技協会　専務理事　**和田靖**

以前、間接的ではありますが、全国大会を成功するために大事な要素は、「宿泊と選手輸送にある」という言葉を聞かせていただいたことがあります。三重の陸上競技を育て上げた、村島先生の言葉であるとも伺いました。

昨今、観光・コンサート・他団体の大会等で、伊勢市近辺の宿泊が困難を極め、U18U16大会では、遠方での宿泊となったチームもあったと聞いております。大会は、次年度以降も開催予定ですので、そのようなことが「極力無いように」という要請を、日本陸連を通じて申し入れをしました。

さて大会ですが、大過なく終了することができました。前週に国スポ（佐賀）大会が実施され、ジュニア世代のトップ選手の出場が懸念されましたが、多くのトップ選手の出場があり、大会を盛り上げてくれました。県内選手もそれに追随するかのような頑張りを見せてくれました。

関係者からのご意見として、地方での大会実施であるのに、「こんなにハイレベルな運営は素晴らしい」というお声をいただきました。特に映像を中心とする情報関係の運営が、専門業者であるかのようなクオリティの高さであったことに驚愕していました。

またフィールドではカテゴリーが多く、タイムスケジュールや実施方法に苦慮していた様子もうかがえましたが、創意・工夫で何とか乗り切っていただきました。

他の部署においても、U18U16全国大会ならではの運営方法を、工夫・対処されたことと拝察しています。あと二年間の実施予定となります。次年度以降も本年度大会運営方法を基とし、より良い大会となるようよろしくお願いいたします。

また、三重県並びに伊勢市をからの多大なるご貢献は、大会成功に大きく寄与する要因であったと深く感謝し、お礼を申し上げます。

さて、ご存じの方も多いと存じますが、２０２１年に中止された三重国体の開催を２０３５年に、改めて「開催を調整する」との県（知事）からの発表がありました。また、中止された全中大会も、開催の方向で調整が進んでいるとの話を聞かせていただいております。

当時、唯一開催された全国高校総体を成功させた組織力と、審判員個々の力量が三重陸協にはあります。次年度も、県大会・東海地区大会・全国大会と多くの大会が開催されます。様々な面でご協力賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

三重陸協アプリを作成しました。個人ノートとして、練習メニューの参考として、競技会詳細について等、無料でご使用いただけます。アップル・グーグルのどちらからもダウンロードできますので、是非ご活用ください。

各地区陸協報告

桑員陸協

令和６年度も支援事業である桑名市民駅伝を最後に大きなトラブルもなく事業が終了しました。個々の競技を見ていくと、三輪芽咲さん（桑名市立正和中学校）が全国中学校体育大会に出場し、また、内山たからさん（津田学園高等学校）が全国高等学校陸上競技対抗選手権大会に出場を果たしました。２人とも今後の活躍が期待されており、競技人口及び選手強化が低迷しているなかで引き続き活躍をしていただきたいと期待しています。

桑員陸上競技協会では、昨年度に引き続き記録会を開催しており、ＬＡ・ＰＩＴＡスタジアム（東員町スポーツ公園陸上競技場）及び四日市、伊勢での各競技場をお借りして実施をしてきました。特に前年度に引き続き、伊勢第２競技場をお借りし、陸上トライアスロンを実施いたしました。県内外から多くの選手に出場していただき大盛況に終わることができました。出場した選手からは「冬季練習前に楽しく出場できた」や「会場の雰囲気もよく、いつものレースとは違いリラックスした状態でレースに出られた」など高評価をいただき、このような事から、来年度も継続して実施していきたいと考えております。桑員陸上競技協会では、以前より強化は勿論、「陸上競技が楽しくなくては選手が育たない」をスローガンとして運営してきました。この陸上トライアスロンを始め、他の記録会も陸上を楽しむきっかけとなるよう更なる改善ができていければ良いと考えています。

全国的にも懸念されている事ですが、三重県内の多くの地域で課題となっているのが、中学校における部活動の地域への移行です。桑員地区も同様に課題となっており、教職員の勤務環境の改善は必要と捉えるものの、そもそも主体である子どもたちの居場所が無くなることは本末転倒であると考えます。サッカーチームのようにクラブチーム化が進み社会体育の中で運営が行われ、クラブチームでの受け皿がある場合であると、スムーズな移行が可能となります。桑員地域でも民間のクラブチーム（指導者が対価をもらい運営する企業体）は少なく、ほとんどが指導者の熱量によって支えていただいているスポーツ少年団がほとんどです。逆にこの状況が地域の指導者への負担も考え、桑員地域では大きく、桑名市といなべ市２つの地域で取組を開始し、来年度から地域クラブの検討委員会も立ち上げ子どもたちの居場所づくりの推進をおこなっていきたいと考えております。

三泗陸協

１月に開催した三泗小学生タスキリレー大会を最後に本年度の競技会をすべて無事終了いたしました。今年度は、長年続けてきた三泗地区の登録制度をいったん休止して大会運営等を行いました。幸い運営費等に窮することもなく、各大会の参加数も堅調で今年度の活動を行うことができました。来年度もこの方法で運営を行いより良い内容の活動を目指していきたいと思います。

コロナウイルス感染症に留意しながら、本年度も以前とほぼ同様の内容で競技会を開催することが出来ました。ただ、異常ともいえる高温の影響で、夏期に開催した競技会については熱中症対策等競技運営にも支障をきたすことが少なくありませんでした。来年度は、通常の大会の代わりに１００ｍに限定した記録会を計画しています。できるだけ夕方に近い時間帯で、細心の注意を払いながら運営等を行う予定です。

今年度も、多くの選手が熱心に活動に取り組み、内数名は全国大会や東海大会へ出場し、三重県代表として健闘してくれました。主要な競技会において、高校の部では全国高校総体において四日市商業高校の堀木優菜さんが女子走高跳で６位に入賞しました。また、四日市工業高校の粟飯原圭吾さんが男子１００ｍと２００ｍに、四日市商業高校の木嶋　鈴さんが女子４００ｍに出場しました。中学の部では全国中学陸上競技大会において楠中学の加田　蒼さんが男子１５００ｍで４位に、山手中学の坂本美來さんが女子８００ｍで５位に、内部中学の是枝愛香さんが女子１５００ｍで７位に入賞と、長距離種目においての活躍が目立ちました。また、塩浜中学の丹野心星さんが男子１００ｍに、走りの学校ＭＩＥの木下奏人さんが男子２００ｍに、川越中学の星野駿人さんと服部涼大さんが男子３０００ｍに、菰野中学の松井優月さんが女子１００ｍに出場しました。11月に行われた県中学駅伝大会においては、男子の部で川越中学、女子の部で山手中学が優勝し男女とも三泗地区の学校が全国大会へ駒を進めました。小学校の部では全国小学生交流大会においてＫＩＮＧＤＯＭ　ＡＣの櫻井咲楽さんが５年女子１００ｍで２位に入賞しました。また、菰野ＳＣの進士瑛斗さんが６年男子１００ｍに、ＫＩＮＧＤＯＭ　ＡＣの西尾颯祐さんが男子コンバインドＡに出場しました。

５年前に全面改修されたメイン競技場ですが、公認競技場としての更新時期を迎え、昨年10月から競技場の改修工事が行われてきました。同時にスターティングブロックや投擲器具等の備品の点検や新規購入による補てんも計画されています。これまで競技場開放日における練習等においては競技会で使用する器具についても利用を認めてきました。が、摩耗や損傷等が多く、競技会への影響が大きくなっているのが実情です。そこで４月からは、特に投擲器具について競技会用の備品の貸し出しを禁止する予定です。練習用として利用できる器具をできるだけ早く準備するよう努めたいと考えていますが、ご理解いただければと思います。

なお、小学校関係において、今年度も県にお願いをしてキッズアスリート陸上教室を11月27日に県小学校にて開催していただき、大変好評をいただきました。

鈴鹿陸協

２０２４年度も関係各位のご尽力により鈴鹿陸協が無事に一年間活動できたことを感謝申し上げます。育成面では年々教員業務が大変になる中、各校監督の先生方が熱心に指導に取り組んでいただき、中学生年代で全国大会個人10名出場、創徳中男子４００ｍＲ出場、その中で白子中の鈴木選手が女子砲丸投で５位に入賞。また、市内高校からはインターハイに６名が出場、鈴鹿高校の宮崎選手が女子走幅跳で４位入賞という活躍をしてくれました。また、大会に必要な様々な物品もスポーツ課や競技場事務所の方などがその都度購入や修理など迅速に対応いただき、常に競技会や練習会が支障なく安全に開催できたことを本当にありがたく思います。

一方で２０２４年度は今後の大会運営、協会の継続的な運営、中学校部活動地域以降など多くの課題が表面化した１年でもありました。

まず、大会運営に関してですが、近年の暑さ対策に関しては場内のテント数を増やし、レースの本数や時間帯を考慮しながら取り組んできましたが、今後同じような猛暑が続くようであれば、今と同じ環境下での安全な試合運営はかなり難しくなります。すでに８月中の大会運営は他競技でも禁止の方向で動き始めているので、屋外で行う陸上競技に関してはより一層の安全対策が求められてきます。

また、協会の継続的な運営についても実際に担当している方たちの高齢化に伴い、審判員の激減、大会前のプロ編や総会への参加者も減る一方で限られた人に負担が偏ってしまっており、次につなげる若手の人手不足については解決の糸口が見つからないまま時間だけが過ぎていっているのが現状です。さらに中学校部活動の地域移行により審判登録をする教員のさらなる減少、学校単位で分担して

いた補助員を今後はどうするのか、そこに児童数の減少（15年後は現在の63％に激減）が加わってくるので、本当に知恵を出し合って前向きに検討していかなければこれからの陸上競技は発展どころか存続さえ難しいのではと思います。日本全体から見れば大都市では資金を集めて地域以降に向けての積極的な改革が進んでいますが、地方都市では公認グランドを維持するだけでも精いっぱいの状況です。実際、体育施設関係の業者さんの話でも国内の市営グランドの公認継続がなくなっていく地域が多いと言う話を耳にします。先日あるコメンテーターが日本は昔の成功に酔っていて、それに縋り付いて改革の道を見つけられない状況に陥っているというようなことを述べておられましたが、まさに陸上界も今まで先延ばしにしていた問題に向けての難しいかじ取りを余儀なくされていくのではないでしょうか。

部活動の地域移行に関してですが、本来鈴鹿市としてはこの令和6年10月以降で市内の中学校は月1回程度地域移行の日を制定し、その日は部活動禁止、中学校の先生の指導も禁止したうえでどのような活動ができるのか試験的に運用することになっていたのですが、夏休み前の限られた時間で参加者を募集したため参加者が集まらず結局実施しないまま、国に申請した予算を返却するということがおこりました。陸協側としては日にちを決めて準備を進めていただけに、予算を返却する前にもう少し開催できるようにどうすればいいかを相談してもらいたかったです。今後、鈴鹿市は令和7年10月以降、第一土日の中学生部活動は禁止で、地区の大会も参加禁止になり、令和8年からは10月以降の休日の部活動は完全禁止になります。

写真1－1　走幅跳

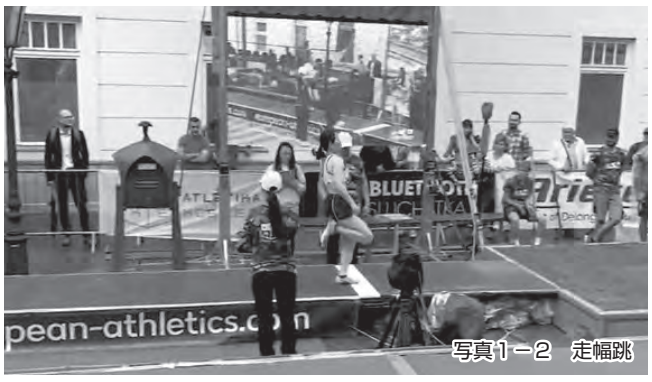


写真1－2　走幅跳

写真2－1　走高跳

写真2－2　走高跳

これらの流れに対し、競技場確保及び施設の現状維持、指導者の育成、大会運営の人手の確保を同時並行で進めていかねばならないので、それらの人材を確保するにはアマチュア競技会であっても拘束時間に見合った手当を出さないと人は動かないでしょう。

私は今までアメリカやヨーロッパでいくつかの練習場所を借りたときに、そこでみた楽しみながら取り組んでいる競技会の形がジュニア世代を育成するうえで最も理想的でした。それぞれの種目に分かれて数人のコーチ陣とあとは保護者が運営を手伝い、子供たちの記録への挑戦に一喜一憂し、罵声を浴びせることもなく、勝っても負けてもよく頑張ったとほめて、このまま頑張っていけばいつか○○選手みたいになれると夢を持たせてスポーツに取り組ませる姿勢が結果としてプロ選手を生み、そこからこういった下部組織へ資金が巡り巡って回ってくるこの仕組みを日本でも作れたらと常々考えています。

教育現場から離れた部活動を良い意味で変革のチャンスととらえて、協力してくれる仲間とともに新しいジュニア世代の部活動を鈴鹿から始めていきたいと思います。

参考までに競技場以外でも観客でいっぱいになるヨーロッパ（スロバキア）での街中での競技会風景を掲載します。日本人選手でもAR（エージェント）を通せば普通の値段の参加料で出場できます。（２０２３年６月９日）

バーを越えるごとに大歓声が沸いています。魅せる陸上競技です。ヨーロッパで陸上競技の試合に参加していると、こんな環境でゲームができる選手たちは本当に幸せだなと実感します。

亀山陸協

最初に昨年度ＪＡＣ亀山の「辻逢夢さん」が三重美し国駅伝大会の第1区で区間賞を獲得しました。また、３月16日には第7回和歌山陸協記録会で１５００ｍを４分51秒89の県小学生記録を樹立しました。

本年度からは亀山市内で開催されていた県小学生亀山地区予選会は鈴鹿陸上競技協会と合同で開催することになりました。亀山市内ではスポーツ少年団陸上交流会、駅伝大会が開催されました。本年度も亀山市在住、在校の小・中・高校生が県内外の陸上競技大会で活躍してくれました。小学生では、ＫＩＮＧＤＭ・ＡＣの「櫻井咲楽さん」は5年女子１００ｍでは三重県小学生大会で優勝し全国小学生陸上競技大会に出場し準優勝に輝きました。また、11月2日に鈴鹿市小学生選手権で80ｍＨを12秒67の県小学生記録で優勝しました。中学生では亀山中学の「永戸海晴さん」が三重県中学選抜大会で標準記録突破し１１０ｍＹＨで全国中学陸上競技大会に出場されました。高校生では亀山高校の2年生「前出春信さん」が東海高校総合体育大会・男子砲丸投で3位になり、全国高校総合体育大会に出場されました。また、三重県で開催された全国大会のU18陸上競技大会では6位に入賞しました。駅伝大会では、津商業高校の2年生「石井夢梨さん」・高田高校の2年生「安藤海哉さん」・四日市工業高校の2年生「松浦　圭さん」が県高校駅伝大会を勝ち抜き東海高校駅伝に出場しました。鈴鹿高校の3年生「山中千佳さん」・「林　里音さん」の2名が第3区と5区で区間賞を獲得し県高校駅伝で三連覇し、全国高等学校駅伝大会に出場されました。本人の努力を称えるとともに、日頃から健全育成も含め児童、生徒の指導に当たっている指導者や先生方に敬意と感謝している次第です。コロナ過で3年間中止になっていた亀山市駅伝競走大会が市民の皆様方並びに関係各位のご支援で、全区間（8区間）：23・2㎞を前半（3区間：7・8㎞）・後半（5区間：15・4㎞）・総合（8区間：23・2㎞）のカテゴリーで事業所・自治会・一般の部の区分で31チームが参加して令和6年2月11日に70回目を開催することできました。

津陸協

一昨年5月に新型コロナが5類に移行して、津地区では令和6年度も感染症対策を意識しながらもコロナ前とほぼ同様の状況で記録会等を開催しました。

津地区では、5月に第1回津記録会・小学生大会津地区予選会を、9月に第2回津記録会を実施しました。しかし、津スプリント

トライアスロンは残念ながら5年連続で実施できませんでした。この大会への参加を楽しみにしていただいた選手や関係者の皆様には大変申し訳なく思っています。津スプリントトライアスロンについては、しばらく開催を中止して、復活に向けて準備をしていく予定です。また、3月には津市スポーツ協会と連携して、竹澤健介氏（摂南大学陸上競技部ヘッドコーチ）を講師にお招きして中学校の長距離選手を対象とした陸上教室を実施し、基本を中心に教えていただき、有意義な練習会になりました。

学校部活動についての改革の波が来ています。学校部活動の〝地域への移行〟です。

全国のようすを見ると、土日を完全に地域に移行したり、土日も学校部活動で…と決定したりするなど、いろいろとあるようですが、全国的な動向としては〝地域への移行〟のようです。津地区においても、先進地域を視察したりして、地域へ移行していく手だてを模索しているところですが、場所や指導者等の課題があり、ほとんど前に進んでいないのが現状です。一つの競技団体でこのことに取り組むにことはかなり難しいかもしれません。地域等で他の競技団体と協力して（調整して）進んでいく必要があるかもしれません。

また、津地区では令和7年度からいよいよ陸上競技場の改修工事が始まります。

30年以上も前から津市へ要望してきた〝競技場の新設〟ですが、種々の事情により現在の〝海浜公園陸上競技場〟の改修工事をすることになりました。令和6年度の『実施設計』を経て、7年度より改修工事が始まり、令和9年度末完成、令和10年4～5月にこけら落としイベントの開催という流れを目指しています。改修された競技場は、全天候型トラックと投擲競技が可能な人工芝のフィールドで、公認3種または4種の陸上競技場になる予定です。現在、市の担当者たちと協議を重ね、また、日本陸上競技連盟や三重陸上競技協会の皆様からのご指導やご助言を賜りながら進めています。使い勝手のよい陸上競技場にしていきたいと考えています。皆様からも、いろいろなご指導・ご助言をいただければ幸いです。

また、津地区では、障がいのある方々に熱心に記録会等に参加していただいています。障がい者スポーツに詳しい方々からご教示をいただきながら、障がいがある人もない人も共に陸上競技を楽しめる環境をさらに創り出していきたいと考えています。

松阪地区陸協

２０２４年はパリでオリンピックが開催され、松阪地区出身の上山紘輝さん（住友電工・松阪西中卒）が２００ｍと４００ｍリレーに、川端魁人さん（中京大クラブ・嬉野中卒）が１６００ｍリレーに日本代表として出場されました。1つの市から2名もオリンピック選手が選出されたことを誇りに思います。上山選手は４００ｍリレーの第4走者を務め、見事に5位入賞しました。川端選手は１６００ｍリレーの第2走者を務め、2分58秒33の日本新記録および アジア新記録で6位に入賞しました。2人は素晴らしい結果を出し、世界でその実力を証明し、夢や希望を与えてくれました。松阪市では、2人を応援するためのパブリックビューイングが開かれ、市民と共に熱いエールを送りました。今後も2人の活躍が期待されます。また、市と協力して11月30日に松阪市総合運動公園で開催された「Ｒｕｎフェスタまつさか」では、上山選手を含む住友電工陸上競技部の選手4名を招き、市内の小中学生約70名がトップアスリートから直接指導を受けました。日本トップレベルを身近に感じられる時間となりました。国内大会では全国高校総体において、松阪商業高の世古櫻紗さんが円盤投で優勝、砲丸投では昨年に引き続き第2位という素晴らしい結果を残しました。また、世古さんは今年度円盤投で47ｍ93という三重県高校新記録をマークしました。同じく三重高3年の中西輝貴さんも、全国高校総体の男子４００ｍハードルで第6位に入賞し、準決勝では50秒96の三重県高校新記録をマークしました。お二人とも国スポでも入賞され、素晴らしい結果を残されました。さらに、松阪には「鉄人」として知られる選手もいます。全日本マスターズ陸上競技選手権大会では、森田亨さんがＭ65の１００ｍで準優勝、成瀬真一郎さんがＭ45のハンマー投で準優勝、中村友昭さんがＭ40の砲丸投および円盤投で準優勝という結果を残しました。生涯スポーツとしての実践を示してくださっております。12月15日には「みえ松阪マラソン２０２４」が開催され、約8、０００人のランナーが松阪を駆け抜けました。この大会は三重陸協の力なしには成立しません。

審判員の皆様、大会運営にご尽力ありがとうございました。また、1月13日に松阪地区陸上競技小中合同練習会が中部中グラウンドで開催されました。昨年に引き続き、約２００名が集まり、身体を一緒に動かして汗を流しました。陸上競技の魅力を引き続き発信できるよう、新年度では普及イベントを増やす予定です。陸協の課題としては審判員の不足が挙げられますが、地道な声掛けや人との関わり方を大切にしながら解決を図りたいと考えています。最後に、全国大会で活躍された選手をご紹介します。【国スポ】世古櫻紗（松阪商3年）：少年女子Ａ砲丸投第3位　中西輝貴（三重3年）：少年男子Ａ３００ｍハードル第6位

【全国高校総体】世古櫻紗（松阪商3年）：女子円盤投第1位・女子砲丸投第2位　中西輝貴（三重3年）：男子４００ｍハードル第6位　【Ｕ16大会】永田麗紗（松阪商1年）：女子円盤投第3位

伊勢度会陸協

地元・伊勢開催となった「Ｕ18・Ｕ16陸上競技大会」の標準記録突破を目指し、３００ｍや３００ｍＨを実施する「チャレンジ記録会」は今年度は競技日程の都合で開催できませんでしたが、来年度は7月5日（土）に実施する予定です。また、県の「Ｕ18・Ｕ16大会」が終了した翌週の9月6日

（土）には最後の挑戦の機会として「チャレンジ記録会ＦＩＮＡＬ」を実施する予定です。地元で開催される全国大会、このせっかくの機会に多くのみなさんが出場できるよう、この大会への参加もお待ちしています（「U18・U16大会」の申込締め切りが未定〈２０２４年12月現在〉のため変更の場合もあり）。また、来年度は12月から「第２競技場」の改修工事が行われる関係で11月29日（土）に実施する予定の「南勢長距離選手権」は、学校の期末テストの時期であること、「お伊勢さんマラソン」や「デンソーカップ」等大会が過密なこともあり、ここ数年は出場者の減少が課題です。この大会は２月に行われる「美し国三重市町対抗駅伝」の最終選手選考も兼ねています。小学生については、より多くの小学生に周知し「陸連登録なし」でも出場できる「一般の部」の出場料を無料にして選手選考を行う予定でいます（公認記録が必要な小学生には「公認の部」〈出場料必要〉も実施）。これまでも伊勢市以外の町がこの大会で選手選考を実施してもらっていますが、より多くの市町がこの大会で選考会を実施してもらえたら、と考えていますのでどうぞ参加をご検討ください。参加者を増やして大会を活性化し、南勢地区の長距離の強化にもつなげていきたいと思います。

さて、今年度も各年代で伊勢度会地区の選手が活躍してくれました。特に今年から地元開催となった「U16陸上競技大会」での小俣中学校の活躍が目立ちました。初日の男子三段跳で中川翔太選手が14ｍ38で優勝すると翌日には男子棒高跳で濱地秀都選手が４ｍ30で８位、そして女子１００ｍで林捺愛選手が優勝と旋風を巻き起こしました。濱地選手は「全日本中学選手権」でも第２位、林選手はアンカーを務めた同大会女子４×１００ｍＲで高田風花選手・西村うい選手・山田梨乃選手とつないで３大会連続の決勝進出で第３位に入賞、今年から名称変更した「国スポ」では少年Ｂ女子１００ｍで第４位に入賞しています。なお、「U16大会」では五十鈴中学校の奥野聡太選手も男子ジャベリックスローで第６位に入賞しています。高校では福岡県で行われたインターハイで伊勢学園の松月秀斗選手が男子やり投61ｍ95で２年連続入賞となる第８位、皇學館高校の橋爪蓮翔選手が男子１１０ｍＨで第６位に入賞しています。また「国スポ」の成年少年共通男子４×１００ｍＲでは伊勢高校の泉　裕人選手が日本の一線級がそろうアンカーを務め、トップでバトンを受け、惜しくも優勝はならなかったものの懸命に逃げ切り準優勝に貢献しました。また、桜浜中学校の木村立樹選手が男子１１０ｍＨで中１歴代最高の14秒64をマークするなど今後が楽しみな選手の活躍も見られました。

来年度も地元・伊勢で「第18回U18・U16大会」が開催されます。今の勢いを来年度につなげ、各大会で好成績を収め、地元での全国大会を今年以上に盛り上げてもらえればと思っております。

鳥羽志摩陸協

今年度は、志摩市立東海中学校出身で稲生高校の小川莉緒が昨年の中学生時から活躍そのままに国民スポーツ大会少年女子Ｂ円盤投で２位、ジュニアオリンピックU18大会女子砲丸投で３位を獲得しました。

中学生では今年度、文岡中学校から中井穂高が四種競技で、河村蓮童が２００ｍで第51回全日本中学校陸上競技選手権大会に出場しました。中井は10位、河村は予選敗退という結果でしたが、次のステージに進む上で貴重な経験となりました。また、惜しくも全中標準には届かなかった選手も何名かおり、そのすべてが小学生から陸上競技に取り組んでいる選手であり、これまでの小学生クラブチームから中学校部活動という選手育成の流れができている事を再度、実感しているところです。来年度３年生になる世代にも期待できる選手が多数いますので、学校の枠を越え、地区全体で盛り上げていきたいと考えています。

例年夏休みになると、８月に行われる県予選大会に向けて、陸上部常設の有無に関わらず全ての中学校が全校体制で陸上に取り組みます。今年度は他部活を引退した３年生等も含めて、３６７人が鳥羽志摩の県予選大会に出場しました。また、陸上競技に携わっていない教員も含め、75名（うち10名が地区陸協審判員）の審判団を構成して運営しています。この協力体制が鳥羽志摩地区の強みだと考えています。

また、鳥羽志摩地区の中学校には４校常設の陸上部があります。しかし、指導者不足という課題があります。それを補うために、例年５月に文岡中学校を会場として陸協スタッフによる専門種目のブロックと新入生を対象とした合同練習を行っています。協会と各校の連携の良さも鳥羽志摩地区の強みです。

普及活動としては、陸上教室や年末の国府の白浜での練習会などを継続して開催しています。国府の白浜では夏季シーズンはサーフィンで賑わいますが、冬季シーズンになると県内はもちろん県外からも多数の中学校、高校が合宿に訪れており、地区陸協、地区内のクラブチームや中学校との交流も行われています。地域の住民からも毎年恒例になり冬の楽しみが増えたとの声や、中高生に刺激され健康のために散歩や運動をされる方も多く、練習会や合宿中は周辺の人口が一気に増える現象も起きています。

地区陸協としても少子化や部活動の地域移行の課題もそうですが、こういった地域住民の健康増進にも一役担えている事もこれからは重要になってくると感じています。

（報告）

陸上競技の普及、若手コーチの育成を目的として次の陸上教室、交流会、練習会を実施しました。

①陸上体験教室

日　時　9月16日（月）
　　9：00～12：00
場　所　三重県立鳥羽高等学校
対　象　鳥羽市・志摩市の小学生
周知方法　鳥羽市・志摩市の各小学校へチラシを配布
申込方法　Ｇｏｏｇｌｅフォーム
参加者名　42名

10月16日に鳥羽市陸上記録会を控えていたこと、昨年のアンケート結果より鳥羽市に陸上競技への潜在的ニーズを確認していたため本年度は陸上体験教室を鳥羽高校グラウンドでおこないました。鳥羽市の参加者は28名（昨年度20名）で、体験教室後に鳥羽陸上教室への問い合わせがありました。昨年度を周到しU12ｐｒｏｊｅｃｔとして打合せを重ね、ＳＮＳで情報共有を行い方向性の確認・全体周知を行いました。若手コーチに練習メニューの組み立て、当日の指導を委ねました。低学年・高学年の２グループに分け、動きづくりを行った後で50ｍ、走り幅跳び（低学年は立ち幅跳び）の計測を実施しました。

アンケート結果からは全体の92％が「速く走れるようになりたい」という理由で参加していましたが、記録に対して無頓着な児童が多いと感じました。当日の記録は児童達に口頭で伝えていましたが、忘れてしまった児童が複数いたようです。速く走れるようになりたい気持ちはあるが、学校で計

測する機会も減っているため速さの基準が分からず、記録を伸ばしたいという意欲が湧きにくい可能性が考えられます。

前年のトップ記録を開会式で伝え、閉会式で当日のトップ記録・児童名を伝えること等で記録に対する意識の向上が図れればと思いますが、今後の課題です。

また、開催時期によっては暑さ対策とした屋内実施、夜間実施も今後の検討課題です。

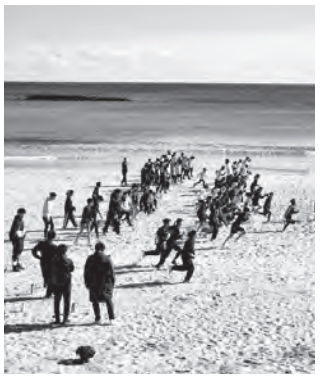
②小学生スポーツ交流会

日　時　11月10日（日）
　　9：00～12：00
場　所　志摩市総合スポーツ公園
対　象　志摩市の小学生
周知方法　志摩市の各小学校へチラシを配布。
　　すぐーる（教育委員会の管理する保護者宛て情報発信アプリ）で一斉送信。
申込方法　Ｇｏｏｇｌｅフォーム
参加者数　55人

志摩市美し国駅伝選考会と同会場で実施。志摩市教育員会との共催。低学年、高学年の２グループに分け、ジャベリックボール投げ、走り幅跳び、１００ｍ（低学年は50ｍ）の記録会を実施。最後に全員参加のリレーをおこないました。降雨のため午前のみ実施。

③合同練習会

日　時　12月28日（土）
　　9：00～12：00
　　13：00～15：00
場　所　国府の白浜
対　象　地区内外クラブチーム、地区内中学校陸上部・野球部
周知方法　各クラブチーム、各中学校へのアナウンス
申込方法　各クラブチーム、各中学校での参加確認
参加者数　94人程度
　　参加クラブ　4
　　参加中学校　4



鳥羽市、志摩市の陸上競技に取り組む児童・中学生が砂浜でのフィジカルトレーニング、芝生広場での基礎動作の確認を行いました。また、陸上競技を通じたライバル・仲間作りの機会として交流を行ない、来シーズンに向けた準備を行ないました。地区外のクラブチームからの参加あり。

④出前教室

依頼のあった小学校に伺い体育の授業で陸協スタッフが陸上競技の指導を行ないました。鳥羽市内の小学校からは、出前教室後には、10月16日の鳥羽市陸上記録会に向けて意欲的に練習をするように児童が変わったとのうれしいお話をいただきました。

鳥羽市立安楽島小学校　10月３日
鳥羽市立加茂小学校　10月３日
志摩市阿児町内野球スポーツ少年団３チーム　1月５日
志摩市浜島小学校　1月21日

伊賀陸協

伊賀市では児童生徒数の急激な減少と学校の急速な小規模化が進み、市教委の推計では今後10年間で児童は１０００人、生徒は５００人減ると試算されています。ここ数年、伊賀地区陸上競技協会はその影響も大きく左右され、競技者の減少、役員や審判も確保にも苦労しているところです。審判員等は決して多いわけではありませんが、各学校・団体の方々のご協力により、競技会の運営などをなんとか円滑に行う事ができました。ありがとうございました。また伊賀地区のクラブチームは、上野ＡＣ・ゆめが丘ＲＣ・ＰＢＡＳＥと３つのチームがあり、陸上競技の普及に大きく寄与していただき大変感謝しています。県小学生大会をはじめ、様々な記録会への参加をする児童生徒さんの活躍が、今後全国大会や世界へと羽ばたいていただけることを期待しています。

小学校全体での協力を得て行われている三重県陸上大会伊賀市予選会も、クラブチームを含め小学校区単位で毎年たくさんの参加があるため、名張陸上競技協会様にご協力いただき、メイハンフィールドにて、公認の競技会がなんとか開催することが出来ました。将来少しでも陸上に興味をもっていただける機会を設け、引き続き、参加していただけるように尽力していきたいと考えています。競技役員の確保の問題や、公認の競技場を使用することで選手の競技レベル向上にも繋がると考えています。各小学校、クラブチーム、保護者様には今まで以上に、ご理解ご協力を得ながら、今後も行なっていきたいと考えています。

中学校、高等学校においても陸上競技部の数が少ないなかですが、全日中やジュニアオリンピック、全国高校総体、国民スポーツ大会などの全国大会に出場し活躍できるチームや選手、および候補選手も一定数います。より普及に力を注いでいける様、なんとか皆様のお力を賜りますようどうぞよろしくお願いします。伊賀市陸上競技協会のＨＰから、陸協からの競技会案内や、新年度の登録方法など活用していただければ幸いです。地域過疎化が進み年々子どもたちの人口が減少していくなかで、引き続き、陸上競技の選手の確保や、指導者の確保、市内全体として小学校、中学校の活性化を図っていきたいと考えています。

名張陸協

名張市体育協会は、今年で70周年を迎えました。陸上協会として増田明美さんをお迎えして講演会を開催いたしました。題名は、「スポーツの底力　地域に与える人と物　感謝、感激、感動」をテーマにお話をいただきました。この裏には、あと3年後のメイハンフィールドの申請に係る大きな問題も抱えているので是非講演内容を物に例えながらスポーツのもたらす底力についてこの時を利用してお話を依頼しました。講演のお礼の花束贈呈は、今年全国中学校選手権大会で２００ｍで優勝した北村環奈さんにしてもらいました。

70周年記念誌の一部を紹介します。

名張市陸上競技協会は、今年で62年目を迎えます。平成30年には、25年間陳情し続けた全天候制トラックに改修され日本陸上競技連盟から4種公認のグランドとして大会を開催することができるようになりました。現在は、競技力向上の為に名張ジュニアクラブも新設され4年目を迎えています。毎年5回の名張市競技会を開催して年間４０００人の選手を迎えて競技会を開催しています。スポーツのもたらす底力とは、やはり環境と人と人が繋がり、感動と勇気、感謝と絆、感激できる日々、その積み重ねがスポーツを愛する子供たちが興味関心を持ち継続する力が生み出す原点になっていると信じています。活動状況は、毎週火・水・金曜日の名張ジュニアの練習、毎週木曜日には、7歳から83歳が集まり楽しく陸上の練習をする名張クラブ、年間24回行う陸上教室等が挙げられます。人生１００年時代を迎えようとしている昨今です。健康寿命を維持しながらスポーツの基本に親しみ名張市から陸上愛好者を増やし全国、世界へと飛躍する競技者が育つことを願いこれからも様々な事業を進めていきたいと考えています。結びに名張市スポーツ協会の一層のご活躍とご発展をご祈念申し上げお祝いの言葉といたします。

２０２４年（令和６年）８月18日
第51回全国中学校選手権大会
中学校女子２００ｍ
優　勝　24秒35

桔梗が丘中（名張Jr）
北村環奈（中２）
三重県中学校新記録も樹立
（７月20日）

三重県小学校クラブ対抗
・選手権大会
（２０２４年９月８日）
・男女総合　第２位
・女子総合　第３位
男子総合５位

OSAKAMARATHON2023
２時間９分39（大阪マラソン）
三重県最高記録賞樹立
辻野　恭哉

小学校男子５年　走り幅跳び
２位　壺田　蓮　４ｍ22
３位　廣瀬有人　４ｍ00

６年生女子８００ｍでもタイムレースで行われました。
松山　弓希　５位　２分42秒38
梶木　紗良　６位　２分42秒62

小学生５年生女子８００ｍ
優勝　川合　紗蘭

〈近大高専の選手も活躍しました。〉
・久保　太一　２年
Ｕ18男子１１０ｍＪＨＡ決勝
７位　13秒92（＋０・５）
・上野　颯勢　２年
Ｕ18男子棒高跳び
３位　４ｍ80
・北村　隼人　２年
Ｕ18男子三段跳び
27位　13ｍ54（＋１・３）
・俵　鉄宗　３年
Ｕ18男子円盤投げ
15位　40ｍ89
・インターハイ出場　井川　絢斗
第６位

第１回名張市陸上競技会 兼
伊賀市名張市小学生地区予選会
５月25日（日）
第２回名張市陸上競技会
メイハンカップ（１位にはメダル授与）
６月15日（日）
第３回名張市陸上競技会 兼
市民大会兼馬市美し国　選考会
８月10日（日）
第４回名張市陸上競技会
９月23日（火）
第５回名張市陸上競技会 兼
美し国選考会
11月３日（月）

令和７年度のメイハンフィルドの大会日程も決まりました。駐車場も５００台収容できる競技場でもあります。
Ｕ16・Ｕ18の種目１５０ｍや３００Ｈの種目を入れて今回は大会を開催します。
是非参加ください。

尾鷲陸協

人口約１万５千人の尾鷲市は、過疎化と少子化が急速に進み、陸上競技人口も減少の一途をたどっています。毎年注目を集める美し国三重市町対抗駅伝では、上位入賞には遠く及ばないものの、地域の子どもたちの頑張る姿は、市民に明るい話題を届け、元気と勇気の源となっています。

「子どもは地域の宝物」「地域の子どもは地域で育てる」を合言葉に、尾鷲陸協は陸上競技を行う子どもたち一人ひとりを大切にし、日々活動しています。６年前からは、尾鷲市長距離選手権兼尾鷲市民スポーツ祭を開催し、野球・水泳・バスケット・サッカー等、他の競技を行う子どもたちが大会に参加する機会をつくりました。この大会がきっかけとなり、中学生や高校生になってからは陸上部に入部し、それぞれの学校で活躍している選手も見られ始めています。６年前からまき続けている種は、大きな花を咲かせるまでには至っていませんが、この地道な取組を継続し、いつの日か大きな花を咲かせたいと夢見ています。

尾鷲陸協は小さな組織ですが、熱意ある指導者がいます。今後とも協会活動へのご支援とご鞭撻のほど、よろしくお願いします。

北牟婁陸協

極小規模な北牟婁陸協ですが、昨年開催された「美し国三重市町対抗駅伝」では残念ながら入賞することができませんでした。過疎化に拍車がかかり、選手を確保することが大変な状況にありますが、なんとか地元出身の選手のみでチームを組もうとスタッフ一同一生懸命に取り組んでいるところです。

明るい話題としては、世古櫻紗（紀北中→松阪商高３年）の活躍が際立っており、昨年度にブレイクしてから今年度出場した全試合において砲丸投・円盤投ともに安定した結果を残し続けることができました。昨年度の北海道ＩＨでは砲丸投、円盤投ともに２位だったので、今年度一番の目標として福岡ＩＨの砲丸投、円盤投の２種目制覇を掲げました。結果は、砲丸投は惜しくも２位だったものの、円盤投は悲願の初優勝を成し遂げることができました。直前の三重県選手権で投げた47ｍ93は見事な東海高校新記録であり、ライバルにすごいプレッシャーをかけることになりました。また、インターハイで優勝したことで初めて日本代表として日韓中ジュニア交流競技会の砲丸投及び円盤投のメンバーに選ばれて韓国遠征に参加し、貴重な経験を積むとともに２回の交流競技会でもしっかりと結果を残すこともできました。

連覇を目指した佐賀国スポの少年Ａ砲丸投では、不本意な３位という結果でしたが、それだけ強さが際立っているということだと思われます。大学に進学して競技を続けるということで、現在も冬季トレーニングに励んでおり、今後の活躍にも大いに期待したいと思います。

世古櫻紗と同僚の久保心優（紀北中→松阪商高３年）は、高校３年生になってから初めて７種競技に挑戦し、見事に県ＩＨで優勝するとともに、東海ＩＨでも８位に入賞することができました。同じ

く7種競技に出場した濵西穂乃佳（紀北中→宇治山田高3年）は惜しくも東海ＩＨ出場は果たせなかったものの、県ＩＨで5位に入賞することができました。

濱田茉裕（紀北中→松阪商高→大体大2年）も順調に力をつけてきており、三重県や東海選手権、関西インカレ等でしっかりと結果を残すことができました。今後の活躍も楽しみにしたいと思います。

小中学生の中では、残念ながら馬渡美結（紀北中2年）が県通信陸上大会の砲丸投で8位入賞したのみと目を見張るような活躍はありませんでしたが、来年度東海大会出場等を十分目指せる選手は育っていますので、来年度を楽しみにしたいと思います。

強化普及の面については、尾鷲高校の垣内元宏先生が指導する紀北ACの活動を中心に、小学生の子どもたちに陸上競技に取り組むきっかけを与えることを継続して行ってもらっています。

今後も、明るい話題を少しでも多く提供できるように頑張っていきたいと考えております。

熊野陸協

熊野陸上競技協会では、「熊野RC」のチームとして、小学生から中学生・高校生・一般の方までが一つのチームとして活動しています。現在、91人の選手が所属しています。練習は、主に小学生が毎週土曜日の夕方に熊野市営グラウンドや木本中学校グラウンドで、毎週水曜日の夜には木本中学校グラウンドで行っています。また、随時、木本中学校グラウンドで主に高校生以上の選手がナイター自主練習を行っています。

本年度の主な活動成績は

・小学生の参加人数が大きく伸びてきました

・地域クラブとして中体連大会に参加

通信陸上大会１１０ｍＨ　優勝（全中出場）

低学年リレー　5位

走幅跳　4位

1年１００ｍ　3位

東海大会　出場

男子総合　8位

・三重県選手権に熊野ＲＣとしてリレーに初参加

・地域のイベント「みんなではしろう２０２５」「新くまの駅伝２０２５」開催

小学生の練習は、毎週水曜日19時からのナイター練習と土曜日の夕方に練習をしています。特に、ナイター練習については、野球など他の競技をしている子どもたちも参加するようになり、参加選手がかなり増えてきました。多いときには40人を越えています。

中学生の活動では、中体連大会に熊野ＲＣとして本格的に参加しました。現在、木本中学校を中心として他3校から熊野ＲＣに所属しています。活躍する選手が増えてきました。通信陸上大会では、山木慶斗（木本中）が、１００ｍＨで優勝し全中出場、低学年リレーでは5位に入賞して東海大会に出場するなど活躍し、男子総合8位に入賞することができました。一般の選手については、はじめて県選手権のリレー種目に参加することができました。もともと、小学校・中学校で熊野ＲＣとして活躍していた選手が、働き出してからまた熊野ＲＣに戻ってきてくれるのは大変うれしいことです。そして、それ以外にも登録選手が増えてきています。今後も、熊野市南牟婁郡の陸上競技活動の拠点として、幅を広げていきます。

そして、地域のイベントとして2つ大きな活動をしました。「みんなではしろう２０２５」は、毎年1月2日に走り始めとして恒例になってきました。地元出身選手が、小中学生と一緒に練習する企画です。高見澤安珠選手（リオ、デジャネイロオリンピック出場：矢渕中出身）、清水剛士選手（十種競技日本選手権3位：木本中出身）、今年度の全日本大学駅伝に出場した曽越大成選手（皇學館大学：矢渕中出身）をはじめ、各地で活躍している選手が集まってくれました。みんなが笑顔で陸上競技を楽しむことができました。

また、1月12日（日）には、「新くまの駅伝２０２５」を熊野陸上競技協会主催で開催しました。熊野の有志の方で継続していただいていた「熊野駅伝」を引き継ぐ形で昨年度より主催しています。前「熊野駅伝」実行委員会の方、熊野ＲＣ保護者の方、地元出身のＯＢ・ＯＧ選手に協力していただきました。前年度より参加チームが大きく増えて48チームの申込があり、地元の方々からもたくさん応援していただき、大変好評でした。これからも、継続していきたいと考えています。

まだまだ指導者が少ないことが課題ですが、お互いに連絡を取り合いながら小学生・中学生・高校生・一般と継続的な指導ができるようにしています。今後も、熊野市南牟婁郡地区で陸上競技の輪を広げられるように、熊野陸協として「熊野ＲＣ」を軸に活動していきたいと考えています。

駅伝中学生の部

曽越選手とランニング

清水選手と小学生

高見澤選手とアップ

「みんなではしろう2025」参加者

「新くまの駅伝2025」熊野RC関係者

各委員会等報告

競技委員会

２０２４年度もお忙しい中、審判・競技運営にご協力頂きまして、ありがとうございます。

２０２５年度は、東海高校総体、東海選手権、東海高校駅伝の３つの東海大会があり、10月のU18／U16陸上競技全国大会は、２年目の年となります。昨年度のU18／U16陸上競技全国大会では、「素晴らしい運営でした」や「純粋に陸上競技を楽しめました」などの高い評価を沢山頂きました。三重県の審判運営については、「いつでも全国大会ができる三重」は勿論ですが、それ以上の評価を頂けた大会であったと思います。

「凡事徹底」という言葉があります。特別なことではなく、ごく平凡なことを徹底してやり抜くという意味です。つまり、物事を成し遂げるには、当たり前のことを当たり前にできるか、徹底してできるかにかかっているということです。「いつでも全国大会ができる三重」が当たり前なのは、普段から「凡事徹底」の凄さだと感じております。

色々な時代の流れはあるものの、やっぱり最後は人です。「ルールの熟知」「すべての人が満足できる競技会」「お互いに思いやる気持ち」の３つのことを審判・競技運営に心がけて頂けたらと思います。

最後に、前回大会を更に上回る全国大会成功へは、皆様のお力が必要不可欠となります。健康には十分留意頂きまして、過密日程の中ですが、大会の審判・競技運営にご協力よろしくお願い致します。

強化委員会

日頃から強化委員会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

強化委員会として注力しております、国民スポーツ大会は本年度、佐賀県での開催となりました。結果としましては天皇杯62・５点で第14位、皇后杯28点で第21位（昨年度は天皇杯65・５点 第12位、皇后杯36点 第16位）となりました。

成年少年男子共通４×１００ｍRではパリオリンピック出場の上山紘輝選手（住友電工）をリーダーに日本選手権出場の林哉太選手（ノジマT＆FC）、全国インターハイ出場の粟飯原圭吾選手（四日市工業高）、泉裕人選手（伊勢高）が抜群のバトンワークで39秒49、見事準優勝を果たしてくれました。これは昨年と同順位（39秒42）となり、優勝を目標に掲げていただけに悔しい結果となりました。また、個人では成年種目において、１１０ｍHで藤井亮汰選手（三重県スポーツ協会）が、また８００ｍで源裕貴選手（NTN）がともに力強い走りで見事３位入賞。砲丸投では村上輝選手（日本体育施設）が持ち前の実力を発揮し５位に、そして、怪我で全日本インカレを回避した中村竜成選手（国士舘大）は安定した投擲で７位に入賞を果たしてくれました。

少年種目では、女子Ｂ円盤投の小川莉緒選手（稲生高）が自己記録を大幅に更新する投擲で見事準優勝。女子Ａ砲丸投ではインターハイ準優勝の世古櫻紗選手（松阪商高）がハイレベルな試合のなかで３位入賞。男子Ｂ１１０ｍHの出場の鎌倉舞飛選手（近大高専）、女子Ｂ１００ｍ出場の林捺愛選手（小俣中）は実力を十二分に発揮してともに４位に入賞してくれました。また、男子Ａ３００ｍHの中西輝貴選手（三重高）はアクシデントに見舞われながらも見事６位入賞に、男子Ａやり投の松月秀斗選手（伊勢学園高）は昨年の雪辱を晴らす７位、男子共通走高跳に出場した井川稜斗選手（近大高専）は２ｍ00までの高さをすべて一回目で成功させ堂々の８位入賞

第78回佐賀国民スポーツ大会　結果

男子

種別	名前	所属	種目	ラウンド	記録	結果	得点	備考
成年男子	林　哉太	ノジマT&FC	100m	予選	10.60（－0.4）	４着		
	岩崎　立来	県スポーツ協会	300m	予選	32.86	３着		
	源　裕貴	NTN	800m	予選	1.48.69	２着		
				決勝	1.48.42	３位	６点	
	藤井　亮汰	県スポーツ協会	110mH	予選	13.70（+1.9）	２着		
				決勝	13.63（+0.1）	３位	6点	
	石倉　南斗	NTN	走幅跳	決勝	７m39（+0.3）	13位		
	伊藤　陸	SUZUKI	三段跳	決勝	15m63（－1.2）	９位		
	村上　輝	日本体育施設	砲丸投	決勝	17m40	５位	４点	
	中村　竜成	国士舘大	やり投	決勝	70m48	７位	２点	
少年男子A	粟飯原圭吾	四日市工業高	100m	予選	10.61（－0.6）	２着		予選通過
				準決勝	10.43（＋3.5）	６着		
	岡　秀磨	皇學館高	300m	予選	34.02	２着		
	中西　輝貴	三重高	300mH	予選	36.64	２着		予選通過 自己新記録
				決勝	－	６位	３点	
	橋爪　蓮翔	皇学館高	棒高跳	決勝	４m80	９位		
	大川　巧	久居高	ハンマー投	決勝	56m99	11位		自己新記録
	松月　秀斗	伊勢学園高	やり投	決勝	61m29	７位	２点	
少年男子B	泉　裕人	伊勢高	100m	予選	10.78（＋0.7）	３着		予選通過 自己新記録
				準決勝	10.77（＋1.2）	７着		自己新記録
	鎌倉　舞飛	近大高専	110mJH	予選	14.01（－0.1）	１着		予選通過 自己新記録
				決勝	14.00（＋1.6）	４位	５点	自己新記録
	横山　竣	稲生高	円盤投	決勝	38m07	22位		
少年男子共通	井川　稜斗	近大高専	走高跳	決勝	２m00	８位	0.5点	
成年少年男子共通	①粟飯原圭吾　②林　哉太 ③上山　紘輝　④泉　裕斗		４×100mR	予選	39.92	１着		予選通過
				準決勝	39.58	２着		準決勝通過
				決勝	39.49	２位	７点	

女子

種別	名前	所属	種目	ラウンド	記録	結果	得点	備考
成年女子	名倉　千晃	ＮＴＮ	100m	予選	12.21（＋1.1）	５着		
	佐藤　若菜	船谷HDG	ハンマー投	決勝	53m46	11位		
少年女子A	北尾　心映	宇治山田商業高	300m	予選	39.36	３着		自己新記録
	後藤　杏実	鈴鹿高	100mH	予選	14.14（＋0.5）	５着		
	世古　櫻紗	松阪商高	砲丸投	決勝	13m90	３位	６点	
少年女子B	林　捺愛	小俣中	100m	予選	12.06（＋0.8）	２着		予選通過
				準決勝	12.04（－0.4）	３着		準決勝通過
				決勝	12.05（＋1.6）	４位	５点	
	小川　莉緒	稲生高	円盤投	決勝	39m55	２位	７点	自己新記録
少年女子共通	堀木　優菜	四日市商業高	走高跳	決勝	1m60	15位		
	宮崎　藍果	鈴鹿高	走幅跳	決勝	５m63（＋2.7）	21位		
	岡島　奏音	皇学館高	三段跳	決勝	11m37（＋1.3）	11位		
成年少年女子共通	①名倉　千晃　②林　捺愛 ③世古　和　④北尾　心映		４×100mR	予選	46.09	３着		予選通過
				準決勝	46.26	５着		

天皇杯得点　62.5点　14位（参加点10点を含む） 皇后杯得点　28点　21位（参加点10点を含む）	天皇杯	静岡　75点	９位
		愛知　85点	６位
		岐阜　36点	32位
	皇后杯	静岡　61点	４位
		愛知　42点	10位
		岐阜　24点	28位

全国都道府県対抗駅伝競走大会　結果報告

男子　令和７年１月19日　12時30分スタート　広島市平和記念公園発着

総　合　第26位　２時間21分26秒

監　督　越井　武吉（NTN）

コーチ　中武　隼一（稲生高）　後藤　剛（伊賀白鳳高）

区間	距離	名前	所属	記録	区間	通過
１区	（７Ｋ）	杉本　憲亮	高田高・３年	20:20	18位	18位
２区	（３Ｋ）	加田　蒼	楠中・３年	９:09	46位	23位
３区	（8.5Ｋ）	川瀬　翔矢	HONDA（主将）※	24:17	26位	24位
４区	（５Ｋ）	三平　弦徳	伊賀白鳳高・３年	14:51	20位	23位
５区	（8.5Ｋ）	廣瀬　聡真	稲生高・２年	25:26	23位	25位
６区	（３Ｋ）	星野　駿人	川越中・３年	９:15	38位	25位
７区	（13Ｋ）	小林　篤貴	NTN	38:08	23位	26位

（※ふるさと出場選手）

選　手	佐藤　榛紀	東京国際大・４年
	茂手木英人	伊賀白鳳高・３年
	服部　涼大	川越中・３年
補　員	岡村　奏汰	松阪中部中・３年

女子　令和７年１月12日　12時30分スタート　たけびしスタジアム京都発着

総　合　第35位　２時24分19秒

監　督　中武　隼一（稲生高）

コーチ　水野　智正（津商高）　田中　将吾（鈴鹿高）

区間	距離	名前	所属	記録	区間	通過
１区	（６Ｋ）	加藤　綾華	ユニクロ（主将）※	20:46	40位	40位
２区	（４Ｋ）	堀　綾花	デンソー	13:16	27位	38位
３区	（３Ｋ）	坂本　美來	山手中・３年	10:04	25位	36位
４区	（４Ｋ）	小川　真生	稲生高・２年	13:54	34位	36位
５区	（4.1075Ｋ）	浅井　芽衣	稲生高・２年	14:11	35位	38位
６区	（4.0875Ｋ）	須山　沙奈	東京農業大・１年	14:13	37位	39位
７区	（４Ｋ）	山中　千佳	鈴鹿高・３年	14:08	43位	41位
８区	（３Ｋ）	是枝　愛香	内部中・２年	10:02	５位	38位
９区	（10Ｋ）	垣内　瑞希	ダイソー※	33:45	23位	35位

（※ふるさと出場選手）

選　手	松谷　里緒	デンソー
	髙橋　愛々	稲生高・１年
	宮田　莉子	鈴鹿高・１年
	研屋　杏虹	川越中・３年
補　員	伊藤まひろ	北勢中・２年

と健闘してくれました。少年選手を中心に、自己記録を更新する選手が多くみられた今大会は男子８種目、女子３種目、男子リレーの計12種目に入賞という結果となりました。

都道府県駅伝におきましては、男子が26位、女子は35位という結果となりました。男子駅伝では、１区の杉本憲亮選手（高田高）が区間18位で２区の加田蒼選手（楠中）につなぎ、その後も堅実なタスキリレーで来年につながる駅伝を見せてくれました。女子駅伝では、直前にメンバー変更があるなかで８区の是枝愛香選手（内部中）が区間５位の好走を見せるなど、終盤の粘りある駅伝で昨年を上回る結果となりました。

また、中学校では全日中女子２００ｍで北村環奈（桔梗が丘）が２年生ながら見事に優勝し、男女６種目で入賞。三重県で開催されたＵ１６陸上競技大会でも男子三段跳で中川翔太（小俣中）、女子１００ｍで林捺愛（小俣中）が見事優勝し、男女７種目で入賞を果たしてくれました。これも日頃から選手のためにコーチングをして下さる方々のおかげです。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございます。

今後、スポーツを取り巻く環境が大きく変化してまいります。その中で強化を図るためには三重陸上競技協会内の連携はもとより、地域をはじめとした多彩な視点での強化連携が必須であると考えております。そのためにも皆様のご理解とご協力が必要となりますので、何卒お力添えのほど宜しくお願いいたします。

情報委員会

今年度も多くの県記録が更新されました。次期シーズンにおいても、選手の皆さんのより一層の活躍を願っています。

一昨年度にも申し上げましたが、現在ではコンピュータシステム等が充実し、競技における記録の集計・並び替えや次ラウンドへの進出者、組・レーン等における作業も迅速・正確にできることが当たり前となっています。ただ、万が一機械が不具合を起こしても、しくみやルールを熟知して対応できる備えも必要でしょう。例えば、パソコンを使っての番組編成に関する作業ができなくなったとしても、次ラウンド進出者のランキングやレーンの割り当て方法等をきちんと理解していて、紙を使って作業を続行できる能力は日頃から養っておく必要があります。これからもバックアップを念頭においた運営を心がけていく所存です。

普及委員会

日頃は普及委員会の活動に、ご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

「強化委員会との連携重視」「地区における普及活動の推進」「指導者の育成」の三本柱を重点目標に掲げ、今年度も取り組みを進めてきました。また、アスレティックファミリーの獲得についてもそれぞれの活動を通して力を入れてまいりました。

「強化委員会との連携重視」では、本県にて開催されたＪＯＣＵ16／Ｕ18大会に向けて、強化委員会と連携しながら中学校の強化練習会等を行ってまいりました。来年度も引き続き三重で行われる全国大会で県内の選手たちが活躍し、次のステップに進んでいけるようにより一層取り組みを進めてまいります。また、本大会では、普及の観点から県内６年生対象に友好レースを実施し、中学校進学に向けての意欲向上、小学生クラブチームを中心としたアスレティックファミリーの拡充につなげることができました。

「地区における普及活動の推進」では、より多くの子どもたちに陸上競技に接する機会を提供することに特に重点をおいて活動しました。昨年度に続き「キッズアスリート陸上教室」を県内各地にて18回開催しました。子どもたちとアスリートが実際に触れ合うことで、そのパフォーマンスに目を輝かしている子どもたちの姿をどの会場でも見ることができ、「自分たちも陸上を始めてみたい」という声、「教えてもらって走るのが速くなったよ」という喜びの声もたくさんいただきました。この活動を通して２、０００名以上の児童に動機づけを行うことができました。来年度以降も陸上競技に触れる機会の少ない小学生にも陸上競技の楽しさを伝える活動として、県内各地で開催していきたいと考えております。

また、陸上競技未経験者の親子を対象にした「三重とこわか国体レガシープロジェクト」も３年目を迎えました。本年度は２年前の開催当初から参加者アンケートでの要望が多かった北勢地区での開催も実施しました。５月に四日市、６月に伊勢で１回ずつ実施し県内各地より４００組ほどの親子が参加しました。陸上競技の楽しさや速く走るコツをそれぞれの発達段階に応じて学ぶ機会となりました。

「指導者の育成」については、本年度は「陸上競技の各種目の指導に関する専門的な知識・技能を身につけ、指導対象や環境に合わせて安全で効果的な 活動を提供できる指導者を養成する」ことを目的に県内外から30名の受講者を迎えて、ＪＡＡＦ公認ジュニアコーチ養成講習会を開催しました。指導者に求められる資質が高まってきている現状のなか、講習会で学んだことを日常の指導や各地区における普及活動にも積極的に活用していただければと考えています。

来年度は、２０２５東京世界陸上が開催され、本県でもＪＯＣＵ16／Ｕ18全国大会が開催されます。陸上競技への興味関心が高まっていくチャンスでもあります。ますます少子化が加速していく中、たくさんの子どもたちに夢を与え、陸上競技に対する意欲や興味・関心を高めるとともに、「選手の可能性の広がり」を大切にし、息の長い選手の育成のために努力してまいりますので、今後もご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

レガシー１

レガシー２

キッズ１

キッズ２

技術委員会

日頃は技術総務・用器具の任務にご協力いただき、ありがとうございます。技術総務は日本陸上競技連盟から委嘱を受け、検定員と技術役員が次の任務にあたっています。

①　公式の競技会を開催し得る陸上競技場と長距離走路等の公

認検定作業を行う。

② 競技場や走路の規定に基づき、競技の実施が可能かどうかを確認する。

③ 用器具が規格に合致しているかを確認する。

④ 競技会では、トラック・助走路・サークル等が規定通りか点検する。

⑤ 各部署と連携を図り、競技の円滑な進行を図る。

これらの任務について具体的な内容を紹介します。競技場および長距離走路（ロード）は、五年に一度、日本陸連規則により検定を受ける必要があります。検定内容は、「距離」、「レベル」、「競技施設」、「用器具」について行われますが、競技場は競技会や練習による使用を続けると、摩耗・剥離・劣化・故障等が起こります。そうなると公式の競技会を開催できる基準から外れるため、都道府県や市町村などの所有者に事前指導を行い、改修をしていただきます。また用器具も規格から外れている場合は、管理者に指導を行い、購入をしていただきます。長距離走路についても同様に、自転車計測を行い、コース新設時から「距離」、「走路の状態」が変わりないかを検定し、またコースの変更等があった場合も規則に基づき申請をしています。このことから改修、検定を行うことで、公式の競技会を開催し得る十分な精度のある適切な施設・走路であると認定されるため、公認の記録と認定することができます。また、日本記録はもちろんですが、三重交通Ｇスポーツの杜伊勢は、ＷＡのクラス２の認証を受けているため、世界記録として認定することができます。

昨年の12月に行われた松阪マラソンは、前回の検定から５年目にあたるため、大会当日に自転車計測の公認検定を行いました。大会運営を行いながら検定へのご協力ありがとうございました。また、３月には、お伊勢さんマラソンの公認検定、四日市市中央陸上競技場の公認検定を予定しています。

各競技場の公認継続、新規公認、公認廃止について日本陸連への申請が必ず必要です。これらに関することは、技術総務にご連絡下さい。また、ロードを使用したマラソン大会の企画が増加しています。新設で公認競技会を計画する場合は、技術総務にご相談下さい。

医事委員会

本年度の医事委員会の活動に、温かいご理解とご協力をいただき、深く御礼申し上げます。

本年度は、各大会とも昨年度５月以降と同じく通常開催となり、当委員会としましても小学生から一般全ての年齢層の大会及び県内大会、東海大会を対象に、年間13大会延べ23日間、現場での救護活動等を中心に行ってまいりました。

今シーズンも、重大な事故、ケガ等は無く、無事予定を終了することが出来ました。但し、例年行っているトレーナーステーションでのトレーナー活動に関しては、人と人との直接接触があること、スタッフの９割が医療従事者であることから、以前までの通常の活動は昨年度と同様に休止し、今年度も申し出のあった選手に対してテーピングのみ行う活動としました。しかしながら、まだそのような制限により、選手をはじめ、多くの関係者の方々に、ご迷惑をお掛けしましたことお詫びいたします。

そんな中、今年度の特徴として、コロナ・インフルエンザ等の感染症の影響があるのか今までほとんどいなかった発熱や風邪に似た症状で医務室を訪れる選手等が大変多く、制限があった時期よりも医務室及びスタッフが、より注意をしなければならない状態になっていたことが挙げられます。まだまだ色々な感染症への対策が必要な生活が続いていますが、時間の経過とともに、それに対しての危機感、警戒心が薄れてきていることを実感しています。今一度、感染症の知識と情報収集のため、常にアンテナを張って油断なく過ごしいただきたく思います。

来年度は、今年度同様にまだ理学的（トレーナー的）な立場からの活動が難しいと思いますが、今後の通常活動再開に向け準備をしていく１年にしてまいりたいと思っています。それに加え、今以上のスタッフのスキルアップをはかり、選手の方々が安全で安心して臨める大会づくりに尽力して参りたいと思います。

尚、シーズン途中でもトレーナー活動が可能となれば、トレーナーステーションは、競技場トレーニングルームに開設させていただく予定です。どうぞお気兼ねなくご利用下さい。スタッフ一同お待ちしています。

これからも、医事委員会の活動に、ご理解とご協力、そしてご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。

高体連

全国高校総体には50名の選手が全国への代表権を獲得し、博多の森運動公園陸上競技場で躍動してくれました。中でも松阪商業高校の世古選手は昨年の勢いをそのままに女子円盤投では見事優勝、砲丸投では２位、女子フィールドの部第２位、女子総合でも８位と昨年に続く素晴らしい結果を残してくれました。さらに宇治山田商業の松山選手は女子やり投で１年生ながら大幅に自己記録を更新し２位、鈴鹿高校の宮崎選手が女子走幅跳で４位、男子４００ｍＨで三重高校の中西選手が準決勝で県高校記録を更新し決勝では６位に、皇学館高校の橋爪選手が６位に、近大高専の井川選手が男子走高跳で６位、四日市商業の堀木選手も女子走高跳で６位に、伊勢学園の松月選手が２年連続入賞の８位と健闘してくれました。今年の福岡も非常に気温が高く日陰で座っているだけで汗が滴る中での大会。自分やライバルとの闘いと暑さへの対応がこのような結果へとつながったのでしょう。

高校駅伝では男子は稲生高校が23年ぶりに優勝、女子は３年連続鈴鹿高校が優勝し、都大路への代表権を見事に獲得しました。また、本年度から地区代表も都大路への権利を獲得することができるようになり、県大会で代表権を逃したチームも再チャレンジすることができるようになりました。男子で県代表を逃した伊賀白鳳高校がトップと８秒差で惜しくも２位と健闘してもらいましたが、女子は稲生高校が11位と東海での差を痛感する結果となりました。駅伝大会においては三重県警松阪署のバックアップをはじめ高体連の担当者、三重陸上競技協会の皆様の協力を得て今年も事故なく運営することができました。これも多くの皆様の協力のたまものと感謝申しあげます。

「努力は必ず報われる」という言葉がありますが、結果がすぐに表れないこともあります。それでも、日々の練習や試合で得た経験は、間違いなく皆さんの成長につながっています。努力の積み重ねは、未来の自分への大切なプレゼントです。挫折や壁にぶつかることもあるでしょう。しかし、挑戦し続けることで、人としてもアスリートとしても強くなれます。失敗や悔しさを恐れず、自分を信じて前に進んでください。

大切なのは、「楽しむこと」です。陸上競技を始めた頃、記録が伸びてワクワクする気持ちを忘れず、競技の中での喜びや仲間との絆を大切にしてください。自分を信じて、仲間を信じて、これからの道を全力で駆け抜けてください。

中体連

多くの方々にご尽力いただき、今年度も全ての大会が開催できたことを大変嬉しく思います。

今年度、福井県で「全日本中学校陸上競技選手権大会」も開催することができました。選手たちは福井の地で素晴らしい活躍を見せてくれました。女子２００ｍで２年生の北村環奈選手（桔梗が丘中）が見事優勝しました。また、男子棒高跳で濱地秀都選手（小俣中）が第２位、女子４×１００ｍＲで小俣中学校が県中学新記録の

47秒87で第3位（3年連続入賞）、男子１５００ｍで加田蒼選手（楠中）が第4位、女子８００ｍで坂本美來選手（山手中）が第5位、女子砲丸投で鈴木萌生選手（白子中）が第5位、女子１５００ｍで是枝愛香選手（内部中）が第7位と7名の選手が入賞を果たしてくれました。

また、8月に三重県で行われた「東海中学校総合体育大会」においても6種目の優勝をはじめ、多くの入賞があり、インパクトのある結果を残してくれました。

10月に今年度から地元三重県で行われた「ＪＯＣジュニアオリンピックカップＵ16陸上競技大会」では、男子三段跳では中川翔太選手（小俣中）が県中学新記録である14ｍ38㎝跳んで優勝、女子１００ｍで林捺奈選手（小俣中）が優勝、女子１５０ｍで北村環奈選手（桔梗が丘中）が第3位、男子ジャベリックスローで奥野聡太選手（五十鈴中）が第6位、男子１０００ｍで加田蒼選手（楠中）が第7位、男子棒高跳で濱地秀都選手（小俣中）が第8位、女子１００ｍで三輪芽咲選手（正和中）が第8位と7種目の入賞を果たすことができました。地元での活躍が期待できる選手も多く出てきてくれたことを喜ばしく思います。

12月に滋賀県で行われた「全国中学校駅伝大会」には、男子は川越中学校が7年ぶり6回目の出場、女子も山手中学校が初出場を果たし、全国という大舞台で堂々たる走りを見せてくれました。

県強化練習会においては、秋季（11月）、冬季（12月、1月、2月）ともに、活気のある充実した練習ができ、来シーズンの活躍を大いに期待できるものとなりました。昨年度より人数を徐々に増やし、全体練習会を種目別で行ったり、日程や会場を分けたり、ゲスト講師を招へいしたり、実施方法を工夫しながら普及・強化を進めています。参加者の中から、来年度沖縄の地で活躍する選手が多く出てくれることを大いに期待しています。

昨年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっています。昨年度は地域クラブの個人種目参戦が可能になり、今年度から条件付きで地域クラブのリレーや駅伝の参加も可能になりました。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、次のステージでも多くの選手が続け、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

ご協賛をいただいた企業

- 株式会社セレモ
- 勢州建設株式会社
- ぎゅーとら
- 住友電装株式会社
- 株式会社デンソー
- ＮＴＮ株式会社
- 長谷川体育施設株式会社
- 株式会社　ニシ・スポーツ
- 日本体育施設
- 株式会社　クレーマージャパン
- 皇學館大学
- ミズノ株式会社
- ユタニベーカリー
- 株式会社　エボリューション
- 三重県民共済

（敬称略）

令和５年度
公益財団法人日本陸上競技連盟栄章受章者

◆高校優秀指導者章

（高校生競技者または、18歳未満の勤労競技者の指導者として、５年以上の指導歴、実績のある30歳以上で特に功労のあった者に授与する）

乙部　公伸（高田高等学校）

◆中学優秀指導者章

（中学生競技者の指導者として5年以上の指導歴、実績のある30歳以上で、特に功労のあった者に授与する）

倉井　一樹（玉城中学校）

◆高校優秀選手章

（高校生競技者または18歳未満の勤労競技者として優秀な者に授与する）

曽野　雅（松阪商業高等学校）

◆中学優秀選手章

（中学生競技者として優秀な者に授与する）

小川　莉緒（東海中学校）

パリオリンピック・パラリンピック　入賞　おめでとう！

上山紘輝
200m・4×100mR（5位入賞）

川端魁人
4×400mR（6位入賞）

伊藤智也
400m（銅メダル）・100m（7位入賞）

前川　楓
走幅跳（6位入賞）

井谷俊介
200m（7位入賞）

川端選手、柳田大輝選手、上山選手がU16・U18大会で能登半島復興支援募金活動をしてくれました。その後表彰プレゼンターも務めてくれました。